



青少年のための科学の祭典

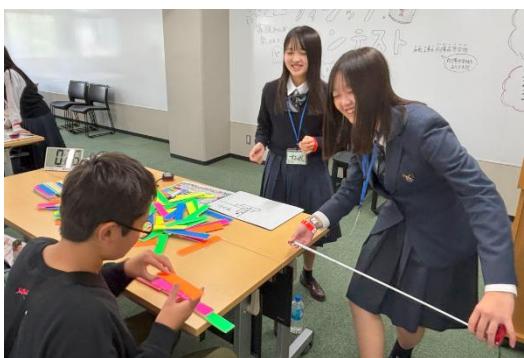
－2025おもしろ科学まつりー和歌山大会に出展！

11月2日（日）、3日（月）、「青少年のための科学の祭典－2025おもしろ科学まつりー和歌山大会」が和歌山大学栄谷キャンパスで開催され、本校から1年生7名、2年生7名の計14名が参加しました。

【参加者数】1日目：来場者1677名、出展者196名、実行委員・運営スタッフ20名

2日目：来場者1759名、出展者207名、実行委員・運営スタッフ23名

この大会のキャッチコピーは「科学を知ろう！体験しよう！和歌山で、
ひらめきの2日間」で、若い世代にさまざまな実体験を通して多くの科学
やものづくりの楽しさに触れることを目的としています。本校からは、
「カエデの種子の模型を作ろう！」、「レッツフィジックスコンテスト！」
という2つの題目でブース出展を行いました。生徒自ら企画・準備し、細



部に至るまで自分たちで行いました。「カエデの種子の模型を作ろう！」では、自分で工作した模型を楽しそうに飛ばしてくれていました。「レッツフィジックスコンテスト」では、記録に挑戦するために工夫を凝らしながら何度もチャレンジしてくれた参加者もいました。両日ともに多くの来場者に来ていただいたおかげで、サイエンスコミュニケーターとしての資質・能力を向上させることができた機会となりました！



以下、生徒の感想です。

- 毎年参加していたけれど、今年は教えてあげる側として参加できて良かったです。知らない人と話すのは得意ではなかったけれど、友達のサポートのおかげでうまくできて良かったです。小学生と考えていることが通じ合って、「ありがとうございます」と言ってもらえたとき、とてもうれしかったです。
- まだ難しい言葉を知らない小さな子どもたちに何度も説明したから、わかりやすく説明できるようになったと思う。アウトプットも自分の成長したと思う。
- カエデの種子がどのように飛ぶのか実際に見てもらうことに



より、子どもたちの反応が良くなつたので、やはり実物を使うことが大切なのだと実感しました。

- 午前中は説明がうまく伝わらず、保護者の方が改めて説明するということも多かったのですが、午後からはコツをつかみ、重点のしくみ、それをふまえての改善点を子どもたちにもわかりやすく伝えられたかなと思います。
- 子どもと同じ目線になって話しながらするのは自分に合っていたのか、思っていたより楽だったし、やっているのも面白かった。
- 知的好奇心旺盛な小学生にたくさん刺激をもらった。ものすごく良い経験となった。たくさんの子どもたちに囲まれて楽しい時間を過ごせた。
- 来場者がたくさん来てくれて、大変だったけれどすごくうれしかったです。
- 1年生・2年生関係なく一生懸命取り組めて良かった。どうすれば小さい子にわかりやすいゲームにできるのか、どういうゲームの構成にすれば回転率を上げることができるのかなど、こういうイベント事を運営しないとわからないことを体験てきて、すごく良い経験になった。2日間、本当に楽しかった。
- 子どもたちの何事にも前向きに挑戦していく純粋さに力をもらいました。私は将来子どもと関わる仕事をしたいと思っていたので、本当に良い経験をすることができたと感じています。
- 小学生に重心の説明をするのは難しかったけれど、少しゆっくりしゃべってみたり、いろいろ工夫したりするのを頑張った。この2日間は自分の理数への興味も深めることができて、とても充実した活動になったと思う。
- 参加者が楽しそうに挑戦する姿を見て、科学を伝えることの面白さを感じました。来年もぜひ参加したいです。
- テンションの高い小学生に接することの難しさを感じました。
- 一人ひとり性格が違うので、子どもたちに合った接し方をするのが少し大変だったが、たくさんの子どもたちと話すことができて良かった。



■SSH先進校を訪問させていただきました！

10月29日(水), SSH指定校である岡山県立一宮高等学校と岡山県立倉敷天城高等学校を、本校の有田啓介教諭(数学科)と池田陸哉教諭(理科)が訪問させていただきました。

【11月の主なSSH事業の予定】

- 4日(火) 向陽防災科学ワークショップ(高2環境)
- 6日(木) 向陽防災科学ワークショップ(高2理系)
- 10日(月) D-1グランプリ(ディベート本戦)(高3環境)
- 13日(木) 向陽防災科学ワークショップ(高2文系)
- 14日(金) K-STEAM講座「中高合同ゼミ」(中3・高1環境)
- 18日(火) ラボツアーⅢ(京都大学・大阪大学)(高1希望者), 教科等横断型授業見学会(高2環境)